

令和7年度1回目BVDバルク乳検査は 県内全戸陰性 でした！

令和7年8月28日(木)に実施した牛ウイルス性下痢(BVD)バルク乳検査において、**県内全戸陰性**を確認しました。

BVDは季節や地域に関係なく発生し、県内でも持続感染牛(PI牛)の摘発事例があります。

今年度2回目のバルク乳検査は来年2月の実施を予定しています。引き続き、検査にご協力をお願いします。

BVD発生予防対策

- 導入牛(妊娠牛はその産子も)は、その都度検査しましょう。
販売用子牛も検査を実施し、BVDのまん延防止に努めましょう。
- BVDワクチンを接種して感染を予防しましょう。
妊娠牛には必ず**不活化ワクチン**を接種してください。
- PI牛と診断されたら、速やかなとう汰が必要です。
PI牛は**完治することなく**、生涯ウイルスを大量に排出し、**感染源**となります。PI牛と診断された場合には、**速やかにとう汰**してください。
とう汰の際は、(一社)埼玉県畜産会等の補助事業の活用が可能です。

～臨時検査のお知らせ～

市町村を通してご回答いただいた牛の臨時検査を9月下旬から順次実施します。なお、検査は随時受け付けておりますので、回答漏れや新たな導入牛がありましたら家畜防疫担当あてご連絡ください。

